

主権者教育十地域課題解決型探求

模擬選挙く可児市議会高校生議会

主催 可児市議会・可児市議会事務局
 日程 模擬選挙打ち合わせ
 第1回 令和元年9月10日
 第2回 令和元年9月12日
 第3回 令和元年10月7日
 第4回 令和元年10月9日
 模擬選挙当日
 令和元年10月30日
 可児市議会高校生議会
 打ち合わせ
 第1回 令和元年11月18日
 第2回 令和元年12月11日
 第3回 令和2年1月9日
 高校生議会当日
 令和2年2月5日
 模擬投票
 場所 可児高校 体育館にて
 高校生議会
 可児市議会本会議場



川上 文浩市議より全体説明、日程、活動の意義などについてレクチャーしていただいた。

模擬投票は2年に1度、高校生議会は毎年行われている。いずれも主権者教育と地域課題解決型学習としての位置付けで行われてきている。本年度も可児市議会として可児市役所議会事務局および選挙管理委員会のご協力をいただいで右記日程で実施された。



本物と同じ選挙ポスター・機材を用意し、本格的に行われることに驚くコアメンバー

初日は日程確認、立候補は市役所に勤務する本校卒業生に依頼することなどが確認され、次回までに「夏のエンリッチなどを通して感じた課題をなるべくたくさんあげられるように整理してくる」という宿題をいただく。二日目、三つの選挙公約を争点に、マニフェストを作成することになった。



開始前の「大人のミーティング」も真剣に行われました。

選挙公約は高校生が出来るだけ「ジブンゴト」として考えやすい「子育て世代サポート策」「学習環境の整備」「多文化共生」の三本柱にすることになった。各候補役の先輩方が他の候補と似通った点と差別化を図る点と織り交ぜて公約マニフェストを作成していただいた。当日は約50人の可児市議会議員や市の職員の方々に協力いただき、演説後のグループ討議でファシリテーターをしていただいた。各候補の政策比較を行うとともに、大人や異学年との交流で、様々な視点から考察することができた。



上段：左より選挙管理員、リーダーによる投票箱確認、開票結果・あ：グループ討議全景



本物と同じ「選挙公報」「選挙ポスター」が作成された。



活動を通じて得た気づきをシェア

模擬投票が終わった直後の11月18日から高校生議会への準備がスタートした。時は前後するが、模擬投票の直前、夏季休業期間で3年生コアメンバーが引退したこともあり、打ち合わせ段階から数名に声をかけ、メンバー増員に努めた。しかし、模擬投票を取り仕切るには十分とは言えなかったため、模擬投票をサポートしてくれる1・2年生希望者向けに「説明会」を開催し、模擬投票前に1・2年生合わせて25名のコアメンバー体制となった。そして、このメンバーで高校生議会に挑むことになった。

模擬投票の打ち合わせ等を通じて、可児市の課題の絞り込みであるとか、自分たちが主体的に解決に向けて起こしたいアクションが明確となってきたため、比較的、意見書として

提出するものの方向性は早期にきまってきた。また、前述の通り、コアメンバーも大所帯になってきたため、2年生をリーダーとする4つのグループに再編した。それぞれの関心によって分かれ「学習支援チーム1・2」「社会福祉系チーム」「多文化共生チーム」に分かれて、地域の社会福祉協議会や可児市国際交流協会等に出かけ、実態を調査した。

しかしながら、「意見書として提出する」以上は正確なデータに基づいた意見であったり、実態に即した実効性のある内容にしていかなければならないという思いもあり、思った以上に意見書の作成に時間がかかった。本来であれば、意見書の採択前のディスカッションでもっと市議会議員の方々と議論できるように、質疑応答で聞かれそうなことをリサーチしたり、他のチームから意見をもらうなどして「自分たちが気づかない点についてもある程度予測できる状態にしておきたかった」という反省も、その後の反省で上がった。とはいえ当日は、高校生議会に参加するのは初めての経験である生徒がほとんどのため、その場の議論についていくだけで精一杯のはずのコアメンバーが生き生きと議論に加わる様子を見ると、こういった機会の重要性を痛感するとともにこのような機会があ



議論しつつ、意見書原稿を完成させるタイトスケジュール



議論の内容を模造紙に落とし込み意見書の方向性を検討



気づけなかった点や広い視野から課題を指摘していただく

るのは非常に可児高校にとってありがたいことである。



右より、グループディスカッションの報告を読み上げている様子。その後、市議会議員より質問があり、答弁をすることになる。これらを受け、最終的に左、意見書発議を行い、採決、採択された。

非常にタイトスケジュールの中（しかもこの日午前中は強歩大会）、的確な指摘に四苦八苦したが、なんとか自分たちの意見書を仕上げる事ができた。そして、議場にて四本の意見書を採択までたどり着くことができた。自分たちの提案の甘さや、実現可能性の部分まで考えてまとめられるとよかった、という生徒も多かったが、来年への課題とした。